

卒業式式辞

長く厳しかった冬も、柔らかな陽射しに春の訪れを感じさせる今日の佳き日、第62回北海道南幌高等学校卒業証書授与式を挙行するにあたり、公私ともにご多用にもかかわらず、南幌町長様、PTA会長様、同窓会長様をはじめ、ご来賓各位、卒業生保護者の皆様並びに多くの関係各位のご臨席を賜り、旅立つ若者の門出に花を添えていただきましたこと、高い席からではございますが、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございませう。これまでお子様を育ててこられましたご労苦に対し、敬意を表すとともに、本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

本校最後の卒業生となる六名の皆さん、卒業おめでとう。

こうやって皆さんにメッセージを伝えるのは今日が最後です。

最後に何を伝えるべきか悩みましたが、私からは入学時にも話した“南高 タンポポ魂”の話をさせてください。

入学式で、ときにアスファルトを突き破って咲くタンポポのような強い生命力を身につけて欲しいとお願ひしました。強い生命力の根源は深く深く張られた根っこが支えています。そんな根っこを育てられる高校生活が送られるように「過去ではなく、現在に生き、未来を輝かせよう！」として「未来を信じてあきらめない」「やった自分をほめる」「誰かの助けを借りる」の3点をがんばって欲しいと訴えました。

皆さんの高校生活はコロナ禍で思うようにいかなかったことだらけでした。見直し・変更・延期・中止…何度そんな言葉を聞かされたことでしょうか。

ことさら不安をあおり、「何もしないことが一番安全だ」と何もかも自粛することがまるで正義であるかのような世の中の重たい空気に、心を打ち砕かれそうになったこともあったかもしれません。ものすごく密な青春の三年間にそのような想いをさせてしまったこと、大人の一人として本当に申し訳なく思っています。

そんな中でも、タンポポ魂を訴えていた私たちが無様にあきらめている姿を見せるわけにはいかない。やれない理由を考える頭があるなら、やれる方法を考えることに使えばいい。そう考えてきました。

実際に、南幌学や地域探究学習に取り組んだり、最後の学校祭・体育祭を最高の思い出にしようと青森県立金木高等学校や地域の皆さんの助けを借りて盛り上げてみたり、数多くの成果をあげてこられたのは、皆さんの協力あつてのことでした。

皆さんは最後の南幌高校を一緒に輝かせてくれた最高の仲間でした。

さまざまな活動を通して、この三年間で大きく成長した皆さんは、自信をもって、タンポポの綿毛のように軽やかに、この学び舎を巣立ってください。私たちは、皆さんのたくましく成長した背中を頼もしく思いながら見送りたいと思います。

最後に一つお願いをしておきます。

人は失敗することで大きく成長することができます。残念ながら、全く失敗しないで生きていくことは困難です。つまり、転んだときは、「誰かの助けを借りよう」です。たとえ助けを借りても、失敗を糧に成長することができれば、その経験は「失敗」ではなく、「成功」になるのです。つまり、先が見えないと感じたときは、私たちでよければ力になります。遠慮せず、いつでも連絡してきてください。

南幌高校が閉校になっても、私たちは皆さんの活躍を信じ、いつまでもワクワクした気持ちで応援し続けています。ぜひタンポポ魂を心の片隅において、未来を輝かせてください。

限りない可能性を秘めた卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、万感の思いを込めて式辞といたします。

令和五年三月一日

北海道南幌高等学校長 矢 橋 佳 之